

テーマ 泌尿器疾患 平成25年度漢方医学講座・臨床講座

泌尿器科領域の 漢方治療

介護老人保健施設 グレースヒル・湘南 施設長
(昭和大学藤が丘病院 泌尿器科 元教授)

池内 隆夫

(平成26年3月9日収録)

私が漢方の魅力を知ったのは25年くらい前で、西洋医学的な治療では治らない症例に漢方薬を使用したところ、画期的な効果を得たことに始まります。

本日はまず、西洋医学を生業としている私が目指す理想的な漢方治療についてお話をし、本題の泌尿器科領域の漢方治療については、自験の集積症例と臨床研究の結果を中心にお話を進めていきたいと思えます。

西洋医学と漢方医学の相違点

■西洋医が漢方に馴染み難い理由

西洋医学を行う者が漢方医学に馴染み難い理由からお話しさせていただきます。ご存じのように漢方医学と西洋医学とでは基本的な概念がかなり異なります。

そこで、西洋医学者が漢方医学を正しく実践するための条件は、

- 1) 発想の転換が重要: キーワードは「個の医学」「患者治療」「テーラーメイド医療」です。
- 2) 西洋医学にはない独特の診断法と治療法を知る: 漢方医学的な病態把握法を証といい、漢方治療の基本となることを理解する。キーワードは「証の医学」「随症治療」「心身一如」「気思想」です。
- 3) 効果判定の基準が異なる: 今までの漢方の報告を見ると、西洋医学的

射線治療後の膀胱萎縮(頻尿)、慢性腎炎、腎盂腎炎、慢性精巣上体炎などに応用されます。

泌尿器疾患の漢方治療

これから、漢方治療の適応性が特に高い泌尿器科疾患について順次お話をさせていただきます。まず始めは、下部尿路不定愁訴症候群ですが、この疾患の病態はまさしく一つの“漢方医学的な証”と考えられます。

■下部尿路症候群

下部尿路症状は、頻尿(昼間の頻尿と夜間の頻尿)・尿意切迫感・尿失禁などの蓄尿症状と残尿感・排尿困難などの排尿症状を指しますが、他にも炎症で起こる膀胱部痛、排尿痛もありますし、それ以外にも下腹部痛・不快感、会陰部痛・不快感などがあり、これを下部尿路不定愁訴と言います。これらを泌尿器科的な病名で言いますと、男性では、前立腺肥大症の初期や慢性前立腺症候群。男女共通のものとしては、下部尿路不定愁訴いわゆる膀胱神経症とか神経性頻尿症、慢性炎症性感染症、過活動膀胱・尿失禁(切迫性尿失禁)、神経因性膀胱、間質性膀胱炎。女性ではLUTS(下部尿路症状)であり、冷え性(症)、血の道症、女性更年期障害が誘因となります。

◆漢方からみた下部尿路不定愁訴症候群の病態

下部尿路不定愁訴症候群の舞台となる臓器は膀胱です。膀胱は骨盤腔内にあるので、瘀血や血虚による症状が起こることがあります。また尿を貯める臓器ですので水毒・水滯も関係してきます。一方、加齢に伴って起こる先天的な生命力の低下である腎虚や、後天的な生命力の低下である脾虚や気虚も影響してきます。更には、心因性の病態である気の異常も不定愁訴の原因として無視できません。それゆえ、この症候群に見られる症状は、これら全ての病態が複雑に絡み合った結果として出現してくるも

表1 尿路不定愁訴に対する漢方薬の臨床効果(報告例の集計)

漢方薬	報告者	症例数	対象疾患(漢方学的証)	有効率
清心蓮子飲	石橋ら	15	尿路不定愁訴(虚証)	73%
	大野ら	99	尿路不定愁訴	55%
	町田ら	99	慢性膀胱炎・前立腺炎	50%
	藤田ら	19	頻尿、残尿感	74%
猪苓湯	和志田ら	44	不定愁訴	82%
	宮北ら	58	不定愁訴	47%
	堀井ら	30	不定愁訴	77%
八味地黄丸	磐田ら	18	前立腺炎	60%
牛車腎気丸	池内ら	48	尿路不定愁訴症候群(腎虚)	80%
駆瘀血剤	原田	62	不定愁訴(瘀血)	92%

(石橋 晃: 臨床, 58(6), 2004 を一部改変)

のと考えられます。

■尿路不定愁訴

尿路不定愁訴は「尿路の慢性炎症性疾患を思わせる症状を訴えるものの、泌尿器科的な検査、(尿検査・前立腺触診・前立腺液検査など)では全く異常を認めない」、あるいは更に広く解釈して「本来の疾患に特有でない症状、または通常の状態で出現する以上に多岐にわたる愁訴がある場合も含む」と定義されています。(石橋 晃: 臨床泌尿器科, 45:283-286, 1991)

◆尿路不定愁訴に対する漢方薬の効果(表1)

西洋医学の泌尿器科では、尿路の異常症状を訴える患者群をLUTS・下部尿路症状といい、一括して定義しています。一方、漢方医学的な立場から見ると、私は下部尿路不定愁訴症候群の病態は一つの証に相当すると考えています。

尿路不定愁訴に関しては今までに清心蓮子飲、猪苓湯、八味地黄丸、牛車腎気丸、駆瘀血剤などの治療データがあります。この内で、虚証の患者